



白血病のインターフェロン(IFN)療法

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2013-08-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大野, 竜三, 大西, 一功 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/2075

白血病のインターフェロン (IFN) 療法

大野 竜三・大西 一功

Jpn. J. Clin. Immun., 18 (6) : 625~625, 1995.

骨髄移植療法が唯一の治癒的治療であった慢性骨髄性白血病 (CML) において、最近、IFN が治癒をもたらす可能性が報告されている。厚生省白血病治療研究班では、未治療の Ph 陽性の慢性期 CML を対象として IFN と busulfan (Bus) の無作為比較研究を行った。IFN α -2a は 900 万単位を連日皮下投与し、WBC 数を 5,000/ μ L 程度に保った。Bus は 1 日 6 mg 経口より開始し、徐々に減量しつつ白血病数を 5,000~10,000/ μ L に保った。

3 年間に 170 例が登録され、適格例 IFN 群 80 例、Bus 群、Bus 群 79 例を intention-to-treat で解析した。血液的效果は IFN 群で CR 39%、PR 39%、Bus 群で CR 55%、PR 43% であった。Ph 染色体の消失率より判定した細胞遺伝学的効果は、IFN 群で

CR 9%、PR 8%、MR 28%、Bus 群で CR 3%、PR 3%、MR 24% であり、CR と PR を合わせると IFN 群が有意に ($P=0.046$) 高かった。観察期間の中央値 50 ヶ月時点で、全体の生存率は IFN 群が Bus 群に比し有意に優れ ($P=0.0290$)、慢性期維持率には有意差はなかった ($P=0.1165$)。IFN 群の aland-mark 解析では、細胞遺伝学的に何らかの効果があった群 (反応群=CR+PR+MR) の慢性期維持率は 70% 以上を示し、有意に非反応群より優れていた ($P=0.0017$)。我々より約 3 年程先行している M.D. Anderson グループの成績では、細胞遺伝学的反応群の慢性期維持率は 8 年以上継続しており、腫瘍細胞クロソンの消失が得られれば長期生存が得られる可能性は大である。